

祝 令和5年 秋の叙勲



きよはる
菊地 清晴さん (71) = 町下 =
県商工会連合会副会長。町商工会
会長。妻、子夫婦、孫との6人
暮らし。孫の成長が日々の楽しみ。

旭日双光章 (中小企業振興功労)

和賀町出身の清晴さんは大学卒業後、結婚を機に金ヶ崎へ。妻の両親が営む店で働く傍ら、仲間から誘われ20代で町商工会青年部に参加。青年部での活発な活動を通し、「仲間を育ててもらった。地域で何をしたら良いか、自分の立ち位置を考えるようになった。」と振り返る。

大切に行っている考え方は、長年続けた柔道で学んだ「自他共栄」。自分だけでなく、地域も共に栄えていくという考え方が現在の活動の根底にあるという。

2003 (平成15) 年、町商工会長に就任。リーマンショックや新型コロナウイルス禍など、地域経済に押し寄せる多くの課題を会員事業所らと乗り越えてきた。15年には県連合会副会長に就任。県内中小企業の発展にも気を配る。

受章の知らせを受け「共に苦労を分かち合えれば」と店を守る妻三枝子さんに感謝。「商工会は小さい店の集まり。みんなで力を合わせて良くしていくため、後継者の育成にも力を注いでいきたい」と力強く話す。

瑞宝単光章 (調停委員功労)



けいや
木村 恵也さん (71) = 栄町 =
調停委員。趣味はクラシック音楽と西洋美術鑑賞。妻と2人暮らし。

大学卒業後、家業の印刷会社で勤めていた恵也さんは2002 (平成14) 年、知人の紹介で盛岡地方裁判所・盛岡家庭裁判所の調停委員へ。私人間での紛争解決のため、当事者の間に入って一緒に解決策を考えていく調停委員。借金や離婚、養育費、遺産相続、交通事故など案件が多岐にわたる中、合理的で経済的な解決に導けるよう親身になって当事者の話に耳を傾けてきた。

盛岡地裁水沢支部で民事と家事の調停を担当。日々異なる案件に直面するが、裁判官をはじめ、裁判所の職員からの助言や調停委員会の勉強会に参加し、必要な知識を身に付けてきた。

「家業との両立は大変だったが、受けた依頼は断らないよう努めてきた」と振り返る恵也さん。当事者間の問題解決にあたり、常に大切にしていることは「相手の立場になつて思いを寄せる」こと。

受章を受け、「職場の従業員や家族の支えと理解があつて長年勤め上げられた」と周囲の支えに感謝し、笑みがこぼれた。

人口と世帯		10月31日現在	
		※ () 内は前月比	
人口	15,208人	(-10)	
男	7,824人	(-11)	
女	7,384人	(+1)	
世帯数	6,373世帯	(+2)	

お詫びと訂正

広報かねがさき 10月号に誤りがありました。お詫びして次のとおり訂正します。

■訂正箇所 21頁「県民手帳、能率手帳を販売しています!」の手帳販売価格
正 県民手帳 800円、能率手帳 900円
誤 県民手帳 700円、能率手帳 800円
※税込み価格

10月は10周年を迎えたオーワングランプリを取材させていただきました。当日はあいにくの雨でしたが多くの人でにぎわっていました。オーワングランプリの醍醐味はなんといっても食べ比べ。私も朝ごはんを食べず、5杯でノックアウト。皆さんは何種類の料理を楽しみましたか。(村口)

広報日記

